





















正確で分かりやすく


#読み手 #書き手 #芸術的文章 #実用的文章
#正確さ #分かりやすさ

「フツーにうまくなる」は変？


-  この本を読めば、文章がフツーにうまくなる。
-  おっ、それいいね。作文とかレポートとか、書くの苦手です。フツーにうまくなりたいんだけど。
-  ちょっと、待った！ 「フツーにうまくなる」っておかしいだろ。普通って、特別の反対だから、つまり、ほかとおんなじ、変わらないってことだよ。それって「うまい」って言うかな？
-  いや、そんなに特別にうまなくても、**普通に**うまく書ければいいんだよ、平均点よりちょっと上くらいに。
-  平均点じゃあ、うまいとは言わない。「ほう、やっぱり違うね、文才のある人は」と感心させるようでなくっちゃ。だから、「普通にうまく」なんて言い方はおかしいよ。
-  まあまあ、まず、「普通」の意味を確認してみようじゃないか。文章を書くためには、語彙力や言葉の知識が欠かせない。それを身に付けるには国語辞典をこまめに引くのがいちばんだ。
-  『明鏡国語辞典 第三版』には、「①他の同種のものとかくらべて特に変わった点がないこと。特別でなく、ありふれていること」ってある。
-  「特別でなく、ありふれている」というのは、どちらかというトマイナスの評価だね。それと「うまい」というプラスの評価とは結び付きにくいということは言える。
-  ほら、やっぱり「普通にうまく」は変だろ。


-  ただし、辞書の記載にはまだ先がある。最後まで読まないかね。
-  ②〔新〕＜「普通に」の形で＞ありのままであるさま。正直なところ」だってさ。〔新〕であるから、新しい使い方ってことか。あれ、「普通においしい」って用例が載ってるよ。それなら「普通にうまく」だっていいんじゃない？
-  その後の「使い方」という解説では、「この『普通に』は、状況によって『意外に』『思ったより』『まあまあ』『ただ単に』などさまざまな意を表す」とも説明しているよ。
-  その「まあまあ」ってのがぴったりくるね。読んだ人に「まあまあうまい」って言ってもらえる文章が書きたいんだよ。「意外に」でもいいかな。へーけっこうやるじゃん、て思わせれば、こっちの勝ち。
-  「勝ち」ってなんだよ？ だいたい、「さまざまな意」ってなると、人によって受け取る意味が違ってきちゃうんじゃないか。
-  何が「普通」かなんて客観的に決められるものじゃないしね。ある人にとっての「普通」は別の人にとっては「特別」かもしれない。
-  「普通にできないのか！」って言われたって、何が「普通」なのかなんて分からないしね。
-  「普通」を押し付けちゃいけないよね。「普通」の基準は人それぞれだ。そんなふうには曖昧なところがある言葉だから、使い方も広がってきたんじゃないかな。
-  「特別」じゃなく「普通」の方がいいっていう考え方もあるよね。
-  いろんな災害や事件、感染症の流行があって、普通に生活することの難しさ、かけがえのなさを見つめる機会が増えた。「普通」のプラスの意味での使い方には、そんな背景もあるかもしれないね。
-  じゃあ、普通に普通にを使っているの？ おっと、この普通は普通


の意味の普通だからね。


 もっと普通に言いなよ。それで、結局、使っているの？

 「普通にうまく」のニュアンスが分かる人に対しては使っている。


 でも、分からない人には使わない、って当たり前じゃん。


 文章を書いて何かを伝えようとするときは、読む人の立場になって、その人が分かる言葉を選ぶ、つまり、**読み手**を意識する、そういう当たり前のことがいちばん大切なんだよ。


 その言葉を使ってもいいか使うべきでないかは、誰に向けてどんな内容を発信するのかをよく考えるべきだってことだね。


 「普通にうまく」は、自分が伝えたいことと異なる意味で受け止められてしまうおそれがある。読み手が親しい友達でない文章、例えばレポートなどでは避けた方がいいね。


文章表現はコミュニケーション


 文章を書くことは**書き手**と読み手とがコミュニケーションをすることなんだよ。

 面と向かってするのがコミュニケーションじゃない？ メールやSNSみたいにすぐに返事がくるならともかく、文章ってほしい一方的に書くものだろ？


 確かにコミュニケーションは、情報を送ったり受け取ったりを代わる代わるやることだね。文章を書く場合、すぐにやりとりするのは難しい。でもね、書き手は、読み手がそれをどういうふうに見るか想像して、理解や共感を得られるよう考えながら書く。読み手は、なぜこんなことを書いたのか、書き手の立場や状況なんかを思い浮かべながら読み進める。これって双方向的って言えないかな。


 直接会って話すのなら、向こうの反応をみて言い方を変えたり、突っ込まれて反論したりできるんだけどね。もう書きちゃったものはどうにもならないよ。


 だから、そういう反応や反論をあらかじめ想定して書かなきゃいけないんだよ。それが読み手を意識して書くってことだ。

 自分の都合だけ考えて書いたり、独りよがりの思い込みで言葉を使ったりするのは、コミュニケーションとして失格ってことか。


芸術的文章と実用的文章


 文章には大きく分けて、小説や詩といった芸術性の高い文章（**芸術的文章**）と実用性の高い文章（**実用的文章**）がある。この本で主に扱うのは実用的文章だ。


 それって面白い？


 そんなに面白くはないな。面白さを求めるなら芸術的文章の方だ。感性に訴え、感情を揺さぶり、ときには人生観が変わるほど感激させる。読み手を感動させるのが芸術的文章の目的といえる。

 じゃあ、実用的文章の目的は？

 知識や情報を伝えることだね。自治体の広報や政府の白書、新聞記事、医学の論文、経済・法律の文章——おーい、ちょっとちょっと、ここでページを閉じないでよ。

 だって、自分にはあんまり関係なさそうなんだもん。

 そんなことはない。仕事したり生活したりしていくのにどうしたって必要になる。アパートを借りるときの契約書、町内会のゴミの分別のお知らせ、手術を受ける同意書なんかも実用的文章だよ。

 それは……関係ないとはいえないなあ。